

# こどもから高齢者まで 誰も取り残さない地域ネットワーク

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した一般社団法人タウンスペースWAKWAKの取り組みを紹介します。

## 誰もが住みやすい まちづくりに取り組む

大阪府高槻市にある一般社団法人タウンスペースWAKWAKは、「ひとりぼっちのいないまちをつくる」というビジョンのもと、個人・団体・地域をつなぐハブとなり、地域コミュニティの再生とともに、誰もが住みやすいまちづくりに取り組んでいる。

主な事業としては、「富田エリア事業」と「中間支援事業」の2つの事業を展開している。「富田エリア事業」は、活動拠点の高槻市富田地域で多様な団体のプラットフォームの役

割を担いながら、こどもから高齢者までを対象にした官民、多セクター連携による多岐にわたる事業を実施している。こどもの居場所づくり事業では、こどもたちに第三の居場所を提供し、子ども食堂や学習支援、フードパントリーなどを行っている。

また、「中間支援事業」では、高槻市全域を対象に多様な団体とのネットワークを形成し、情報共有を図りながら、富田地域の実践モデルを他地域に波及させていくことに取り組んでいる。

同法人は、令和5～6年度のWAM助成を活用し、「子どもから高齢者の切れ目ない支援を多セクター共創で生み出す事業」を実施した。

同事業は、こどもから高齢者までの切れ目ない支援を生み出すことを目的に、①富田だいま食堂事業、②高齢者見守り事業、③生活応援支援、④まなびカフェ、⑤わくわく広場、⑥ワンストップ相談支援、⑦包括支援ネットワークの構築などを行った。

事業を実施した経緯について、代表理事の岡本茂氏は次のように説明する。

「近年、コロナ禍において、社会的不利を

## WAMからひと言

こどもから高齢者まで切れ目のない支援を生み出すことを目的として、誰もが住みやすいまちづくりに取り組まれました。支援の実施に際してはセクターを超えて多数のボランティアや地域組織と協働し、包括的な支援体制を構築されました。

支援対象者と定期的につながって関係性を構築することにより、行政の対応が難しいケースにもアプローチされている点を高く評価しています。

今後は支援モデルとして活動を他地域へ波及させるとともに、行政と連携し、持続可能な事業体制を構築することを期待します。

抱えるこども・高齢者がより一層の不利を抱えており、それらに物価高騰などが追い打ちをかけあらゆる属性に孤立・孤独が広がっている現状があります。さらに、活動エリアの富田地域は、508戸の市営住宅があり、生活困窮世帯やひとり親世帯、高齢者世帯など、社会的課題を抱えた人たちが多く地域となっています。現在、市営住宅は全面建て替えが進められており、ハードの整備にあわせて自治会の再構築や包括支援の仕組みをつくる必要性がありました。そのため、助成事業では、古民家を改装したコミュニティスペース『Niko Niko』を拠点に、さまざまな属性別の



事業を創出するとともに、地域のボランティアを発掘し、子どもから高齢者まで切れ目ない支援をつくることに取り組みました」。

## こどもの食支援と学習支援を実施

「富田ただいま食堂事業」は、これまでケア付き食堂として生活困窮や福祉的なケアが必要な子どもを対象にしていた子ども食堂を、自立の観点から子どもたちと一緒に料理をつくり、食支援と学習支援を行う場にリニューアルして実施した。

実施体制は、コミュニティスペース「Niko」で月2回開催し、令和6年度は延べ614人（実人数26人）の子どもが参加した。利用するこどもの状況や活動について、業務執行理事・事務局長の岡本工介氏は次のように説明する。

「支援対象は、生活困窮世帯等のこどもに限定しているわけではありませんが、行政や



「富田ただいま食堂事業」では、食支援と学習支援を実施するとともに、さまざまな文化に触れるイベントを開催

学校から紹介された、家庭環境に課題を抱えた子どもが多く参加しています。生活課題への対応とともに行政・学校との情報共有を行っています。活動では、法人スタッフとともに、子育て層のボランティアや、自宅で絵本の読み聞かせなどを行う文庫主宰者に携わってもらい、さまざまな文化に触れるイベントを開催することで体験格差の解消を図っています」。

また、地域の子育て層に対しては、子育ての困りごとや発達障害の悩みをわちあう場所として「子育てサークルおはなカフェ」を開催し、ベラン保育士や文庫主宰者等の女性ボランティアが中心となり、絵本の読み聞かせや相談対応を通して孤立や

孤独に陥らないよう支援を行った。

## 地縁組織と協働した高齢者の見守り支援

「高齢者見守り事業」では、主に市営住宅の独居高齢者を対象に、さまざまな交流活動を行うことで孤立・孤独を防止し、生きがいや役割をもって生活できるよう支援した。交流活動の場として、地元老人会との協働で「高齢者ふれあい喫茶」を毎月開催し、交流会に参加できなかった高齢者に対して、老

### 令和5～6年度事業

## 一般社団法人 タウンスペース WAKWAK

子どもから高齢者の切れ目ない支援を多セクター共創で生み出す事業



WAM 助成  
e-ライブラリー

### 事業概要

#### 助成額

令和5年度 400万4千円  
令和6年度 408万5千円

#### 【事業概要】

子どもから高齢者までの切れ目ない支援を生み出すことを目的に、地縁組織から大学生までの多様な担い手と協働し、既存事業の活性化や新規事業の創設、多セクターとのネットワークを構築する事業



#### 【主な実施内容】

- ◆富田ただいま食堂事業  
こどもたちの自立の観点から、こども自身が料理をつくる子ども食堂と学習支援を開催
- ◆高齢者見守り事業  
主に市営住宅の独居高齢者を対象に、さまざま交流活動や見守り支援を行うことで孤立を防止する
- ◆生活応援支援  
市営住宅の生活困窮家庭等に対し、食料支援や生活応援を実施するとともに、要支援者の状況把握を行うことにより継続的な支援につなげる
- ◆包括支援ネットワークの構築  
地縁組織、学校、行政等のセクターを超えた包括支援体制を創り出すことにより、複合的な課題に対して包括的に支援する仕組みを構築

#### 【成果】

- ◆令和6年度の「富田ただいま食堂事業」の利用実績は、延べ614人（実人数26人）の子どもが参加した  
地域の子育て層のボランティアや文庫主宰者が中心となり、さまざまな文化に触れるイベントを実施することで体験格差の解消を図った
- ◆高齢者見守り支援では、地元老人会との協働で「高齢者ふれあい喫茶」を運営し、交流活動を行うとともに、市営住宅の独居高齢者への見守り支援を実施した
- ◆生活応援支援では、市営住宅の要支援者を対象に延べ585人（65世帯）に対して食料支援を行った。食料支援を通じて顔の見える関係を構築することにより、困りごとの相談が多く寄せられることにつながった
- ◆「包括支援ネットワークの構築」では、行政をはじめ、地縁組織（自治体、老人会）、学校、認定こども園、大学、企業などとネットワークを構築し、複合的な課題を抱える住民を包括的に支援する仕組みをつくった





人会の役員が中心になって自宅を訪問し、見守り支援を行った。

さらに、生活応援支援として、市営住宅に居住する生活困窮家庭等の要支援者への食料支援を実施し、延べ585人(65世帯)が利用した。

「配布する食料については、フードバンク団体からの寄贈やフードドライブで集めた食品を自治会や老人会などと連携して届けています。食料を届けることは一定の生活支援になります。我々としては困りごとがあったときに相談してもらえよう、地域のなかで顔の見える関係をつくることも大きくなっています。住民から聞き取った困りごとや要望を行政に報告し、連携しながら課題解決を図っています」(岡本代表理事)。

## 対人援助や 多様な文化を学ぶ機会を提供

担い手の発掘と人材育成に向けた取り組み



「高齢者見守り事業」では、地元老人会の協力を得て「高齢者ふれあい喫茶」を開催するほか、市営住宅の独居高齢者への見守り支援を行った



生活応援支援として市営住宅の要支援者を対象にした食料支援の様子

では、「わくわく広場」として、将来、教員や福祉職等を目指す大学生に対し、小学生を対象にしたイベントを企画・実施することにより、さまざまな背景をもつ子どもに寄り添うためのスキルやノウハウを学ぶ機会を提供した。

活動では、専門職による対人援助等に関する研修を実施するとともに、同法人の居場所事業に参加する小学生や児童養護施設の社会的養護の子どもたちと交流を図った。多様な子どもと関わる経験を通じて、参加した学生からは「これまで当たり前だと思っていたことが、そうではないことがわかった」などの感想が寄せられたという。

さらに、「わくわくWorld」として大阪大学と連携し、海外留学生と子どもたちがイベントを通して交流を図り、海外ルーツをもつ人に対する理解を促進することに取り組んだ。

「この事業を実施した経緯としては、留学中に日本人と関わらずに帰国する留学生が多く、日本人大学生から交流を深めたいと提案を受けたことがきっかけでした。近年、市営住宅の入居者も外国籍の方が増えており、こどもの頃からふれあうことで、コミュニケーションが図りやすくなると考えました。活動には、インド、中国、ベトナム、インドネシア、マレーシアなど多様な国籍の留学生が参加し、母国の料理をこどもたちと一緒につくりながら、多様な文化に触れる体験を行いました」(岡本事務局長)。

「わくわくWorld」は、参加

者からも好評で、地域の海外ルーツをもつ世帯にも参加してもらい、互いの文化を理解しあうことにつながったという。

そのほかにも学びの場として、地域住民や学校・施設関係者がさまざまな社会課題について理解を深めてもらうことを目的にした「まなびカフェ」を開催した。

令和5年度は教職員向けに部落問題や地域性をテーマにした講座を実施し、令和6年度は地域支援の新たな担い手の発掘を目的として、子育て層の親子を対象に、子育ての困りごとを共有しながら、講義やワークショップなど多様な形式で学ぶ講座を実施した。

## 生活の変化や困りごとに対応

「ワンストップ相談支援」では、これまで同法人で実施してきた相談支援に加え、市営住宅の建て替え後の移転等により、家賃や引っ越し、生活の変化による不安や困りごとに対応するため、事務所での相談支援とともに出張相談会を開催した。

令和6年度の相談支援の実績として、事務所では262件、出張相談会では38件の相談対応を行った。

「相談内容では、ごみの処分の仕方や引っ越し手続きなど、移転後の生活変化に関する内容が多くなっています。高槻市が主催する入居者への移転説明会にも必ず参加して入居移転に関する困りごとにも対応しています。そのほかにも、例えばひきこもりで誰とも接触していない当事者と、当法人のスタッフだ



助成事業の成果について、地縁型コミュニティとテーマ型コミュニティを融合できたこ

## 地縁コミュニティと テーマ型コミュニティの融合

「包括支援ネットワークの構築」としては、同法人の呼びかけにより、自治会や老人会などの地縁組織を中心に、行政、学校、認定子ども園、大学、企業などとのネットワークを構築し、包括支援の仕組みをつくった。社会課題が複雑化・多様化するなか、分野を超えた多セクターによる課題解決のプロジェクトとして、地域支援全体の方向性を共有し、連携しながら解決を図ることにつながっているという。



「わくわくWorld」では、子どもと海外留学生が母国の料理をつくりながら交流を深めた

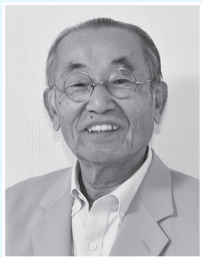


一般社団法人  
タウンスペース WAKWAK  
業務執行理事・事務局長

岡本 工介氏

## 誰一人取り残さない地域をつくる

一般社団法人タウンスペース WAKWAK  
代表理事 岡本 茂氏



活動拠点の富田地域は、市営住宅の建て替えが進められており、まちの風景が一変するなかで新たなコミュニティの創出や自治会の再編が必要となり、社会資源を組みあわせながら地域力を高めていくことが重要となっています。

今後は、地縁型の組織として「誰一人取り残さない地域」、「ISOSを見逃さない地域」をつくっていききたいと思います。顔の見える中学校区でのコミュニティ再生を含めた福祉のまちづくりが、高槻市全域にとどまらず、全国モデルとなるような取り組みをしていきたいと思っています。

集まる場をつくり、多くの参加者や支援の担い手を発掘することができました。このような地縁型コミュニティとテーマ型コミュニティの両方を一つの事業体として行う組織は全国的にみても数少ないと思います。コミュニティの融合により、地域の盆踊りや、誰でも参加できる共生食堂の「わくわく食堂」には1000人を超える地域住民が参加しており、多世代が「ごちやまぜ」に交わる交流拠点を生み出すことにつながっています」（岡

本事務局長）。  
とをあげている。  
「これまで実践してきた地縁型コミュニティに加え、助成事業ではテーマ型コミュニティとして子どもから高齢者まで多様な属性の人たちが

### ◆団体概要

〒569-0814  
大阪府高槻市富田町2丁目13-8 ハイツ白菊1F  
TEL: 072-693-9005  
FAX: 072-693-9005  
URL: <https://ts-wakwak.com/>  
設立: 平成24年4月  
代表理事: 岡本 茂

助成事業の波及効果として、これらの実践が評価され、日本地域福祉学会が地域福祉に関する優れた実践を表彰する「令和6年度地域福祉優秀実践」の受賞に至った。今後は、支援モデルとして活動を広げていく発信に注力するとともに、事業を持続可能なものにするため、行政と連携して事業化や委託化について働きかけ、新たな財源確保に取り組んでいきたいとしている。



社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

### ●NPO リソースセンター

NPO 支援課（助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等）  
TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課（助成事業の広報、事業評価等）  
TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO等の民間福祉活動への  
応援よろしくをお願いします！

当機構では  
寄付金を募集  
しています



お問合せ先: 03-3438-0211 (総務部総務課)

